

学びや

歴史上の人物の生き方を学ぶことなどを通して、道徳を養うこと目的と

軽視されているという批判が大きくなつていきました。

されていた明治期の修身で、友人から金を預かって教科書を所蔵していますたフランス人のピエールが、今回はそうした中かが、自分がどんなに貧し

戦前までは、学校教育の中での「修身」という授業が行われていました。

歴史上の人物の生き方を学ぶことなどを通して、道徳を養うことを目的としたものです。

軽視されているという批判が大きくなつていきました。

されていた明治期の修身教科書を所蔵していますが、今はそうした中から、浮世絵が用いられた修身教科書を紹介します。写真は82年から84年にかけて発行された『錦絵修身談』の一部です。画面いっぱいに版画を用いており、友人同士の信頼関係をたたえる内容です。このように絵画に重きをおいた教科書を作った



児童の学びやすさ工夫

前後には多くの修身教科書が編さんされました。この時期の教科書は文部省による教科書検定制度ができる前のもので、内容も実に多様です。京都市学校歴史博物館では、京都の市立学校に残

介し、四角で囲ったテキストを画面内に配置するという浮世絵の形式をとつたもので、教科書としては珍しいかたちでした。また、日本、中国、西洋の逸話が掲載されており身近に感じさせる工夫が絵画によって

は、京都の市立学校に残

洋の逸話が掲載されており、儒教的道徳と西洋道徳を同時に盛り込んだ内容がえます。

前後には多くの修身教科書が編さんされました。この時期の教科書は文部省による教科書検定制度ができる前のもので、内容も実に多様です。京都市立学校歴史博物館で

介し、四角で囲ったテキストを画面内に配置するという浮世絵の形式をとつたもので、教科書としては珍しいかたちでした。また、日本、中国、西欧、よく身近に感じます。

岡芳年など当時の人気浮世絵師に絵が依頼されましたが、教科書を分かりやすくするために「こさないため」と書いています。そのために、月絵を用いて倦怠の心を起さないため」

して修身が重視されるようになり、82(同15)年

て歴史上の人物にまつわる逸話の一場面を紹介する。編者は幼童が喜び、興味をもつ錦

である「教学大旨」では、実学とともに道徳教育が根本として挙げられました。これを大きな契機と

写真は82年から84年にかけて発行された『錦絵修身談』の一部です。画  
面いっぱいに版画を用い、士の信頼関係をたたえる内容です。

軽視されているという批判が大きくなつていきました。

されていた明治期の修身教科書を所蔵していますが、今日はそうした中から、浮世絵が用いられた修身教科書を紹介します。まず、数年後友人にそのまま区切ったうえで、友人から金を預かってたフランス人のピエールが、自分がどんなに貧しくてもその金に手を付けられず、数年後友人にそのまま返す。